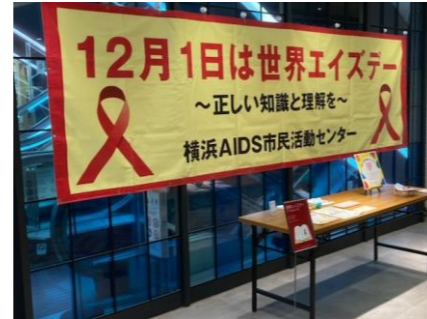


センターからのお知らせ

世界エイズデー in Yokohama 2022 報告

横浜 AIDS 市民活動センターは「世界エイズデー in Yokohama 2022」を横浜ビブレ 2 階 POP-UP スペースで開催しました。11 月 25 日から 12 月 1 日の期間中、当センター作成「知ってる?エイズのこと。」や「性感染症」のポスターと HIV・エイズのパンフレットや、若者の支援・相談先のカードを配架しました。新聞社 2 社から取材があり、ひとりで悩まず HIV 検査を受けてほしいこと、早期治療により現在では薬で進行が抑えられる病気であることを紹介できました。



パネル展 トランスジェンダーのリアル 報告

横浜 AIDS 市民活動センターを会場として、「パネル展 トランスジェンダーのリアル」を 12 月 2 日から 12 月 24 日まで開催しました。「トランスジェンダーのリアル」の冊子の配架をはじめ、館内にある書籍や小学校・中学校・高等学校の保健体育科の教科書や相談先カードの紹介も行えました。来館者からは「もっと早く知りたかった。」「このような企画がうれしい。」との感想がありました。パネル展終了後も「トランスジェンダーのリアル」の冊子は、当センターに配架してあります。



『ピンクシャツデー 2023 in 神奈川』について

2021 年度の小・中・高等学校等におけるいじめの認知件数が、61 万 5351 件と過去最多となったことを文部科学省が発表しました。その中でネットのいじめ件数は初の 2 万件を超えています。子どもも大人も、いじめを受けていい人は誰もいません。2 月の最終水曜日は「いじめ反対」の意思表示をし、いじめのない社会づくりを呼びかけるピンクシャツデーです。ピンクのシャツや小物を身につけ、「いじめ」と「尊重」を考える機会にしましょう。ピンクシャツデー 2023 in 神奈川 公式サイトはこちら↓ <https://pink-shirt-day-kanagawa.com/>



HIV・エイズ、性感染症の正しい知識・最新情報をわかりやすく解説!



発行:横浜 AIDS 市民活動センター
公益財団法人横浜 YMCA が横浜市から事業を受託しています。
〒231-0015 横浜市中区尾上町 3 丁目 39 番地
尾上町ビル 9F / TEL:045-650-5421 FAX:045-650-5422 / E-mail: info@yaaic.gr.jp
平日:13:00~20:00 / 土・祝:10:00~17:00
休館:日/火
監修:横浜市健康福祉局健康安全課

特集 UNAIDS (国連合同エイズ計画) と平等について

性・エイズに関する学習会 2023

テーマ:包括的性教育

定員:各 40 名
参加費無料

横浜 AIDS 市民活動センターは、HIV・エイズに関する情報の提供や、青少年や一般の方向けにエイズの勉強会を開催しています。その活動の中では、性の多様性や人権を大切にしています。性・エイズに関する学習会 2023 では、性の知識が、自分やパートナーを守り、性が誰にとっても身近で大切なものであることを学びます。

2023年3/25(土)	講師	講座内容
13:00~ 14:30	渡辺大輔さん 埼玉大学 基盤教育研究センター 准教授	性の権利と包括的性教育 著書:『マンガワークシートで学ぶ多様な性と生』(子どもの未来社) 『実践包括的性教育』(エイデル研究所)
15:00~ 16:30	樋上典子さん 関東学院大学非常勤講師・ 元公立中学校保健体育科教員	思春期の子どもたちに性の学びを届けたい!! ~包括的性教育の実践と課題~ 著書:『実践包括的性教育』(エイデル研究所)

参加対象:学生・子育て中の方・子どもや若者への支援者・テーマに関心のある方
定員:各 40 名
会場:横浜中央 YMCA(横浜市中区常盤町 1-7)
アクセス:JR 関内駅南口、市営地下鉄関内駅 徒歩 3 分
みなとみらい線日本大通駅 徒歩 5 分
申し込み:2 月 15 日(水) 15:00 から 3 月 22 日(水)まで。
当センター HP のお知らせにて受付。(※定員になり次第締切)
URL <https://yaaic.gr.jp/category/yaaic/centerinfo>



申し込み QR コード

主催・お問合せ 横浜 AIDS 市民活動センター
TEL 045-650-5421 メール info@yaaic.gr.jp

特集 UNAIDS (国連合同エイズ計画) と平等について



みなさんは UNAIDS (国連合同エイズ計画) という機関を知っていますか？
コムちゃんと一緒に学んでいきましょう！

【UNAIDS の誕生】

1981年に初めてエイズの患者が発見されてから、WHO(世界保健機構)が中心となってエイズ対策を国際的に行ってきました。1990年代半ば、エイズの感染拡大により、国際社会や国際経済への影響が大きくなり、エイズに対する取り組みが強化されました。
そしてグローバルなエイズ対策を行うために1996年に生まれたのがUNAIDS(国連合同エイズ計画)です。本部はスイスのジュネーブにあり、現在では11の国連機関が一体となってエイズ対策に取り組んでいます。

【現在の状況】

UNAIDSは、HIV・エイズ感染に対して包括的かつグローバルな行動を進める機関です。HIVの新たな感染を減らし、エイズ関連の死亡者数を減らし、エイズは死の病ではないことを証明するために重要な役割を果たしています。
しかし現在、新型コロナウイルス感染症やその他の世界的な危機状況のもとで、HIV・エイズ感染対策の進展は妨げられ、エイズ対策資金が不足し、世界のHIV陽性者3,840万人のうち、970万人が治療を受けられていない状態です。

【UNAIDS のウィニー・ビヤニマ事務局長が語る】

「みんなの安全を保ち、健康を守るには、平等の実現が必要です。エイズを永続させている不平等に終止符を打ちましょう。それができればエイズ終結も可能です。」

【3つの不平等を平等に!】

ジェンダーにおける不平等

・男女間の不平等な力関係、あらゆる形の性的暴力や自分の意志により、性の健康について決定ができていない。

キーポピュレーションが直面している不平等

・流行によって大きな影響を受けている人々たちへの社会的差別やスティグマが解消できていない。

子どもと大人の間での不平等

・抗レトロウイルス治療を受けているのは大人(15歳以上)で75%以上、子どもは52%のみである。

解決すべき3つの不平等を克服し、弱い立場の人たちの健康と福祉を優先し、HIVの治療・検査・予防サービスのアクセスを誰に対しても平等かつ公平に確保することが必要です。誰もが尊重され、歓迎され、平等を実現することはすべての人を助けることになるのです。

エイズ終結の達成目標 2030年まで、あと7年。すべての人々の人権を尊重し、平等を実現する具体的なアクションが必要なんだね!



参照:UNAIDS 世界エイズデー2022 報告書 PDF日本語版

3月1日

エイズ差別ゼロの日

2013年UNAIDS(国連合同エイズ計画)及びUNAIDSの差別ゼロ運動提唱者アウンサウンソーチーさんが世界エイズデーを機に差別ゼロキャンペーンを宣言。「すべての人が心を開き、理解し合い、差別を終わらせる動きに加わってください。」と呼びかけています。

《 今日は何の日? 》

4月7日

世界保健デー

1948年WHO(世界保健機構)の設立を記念し設けられました。毎年WHOによって国際保健医療に関するテーマが選ばれ、この日を中心に、世界各国でその年のテーマに沿ったさまざまなイベントが開催されます。

12月1日

世界エイズデー

世界レベルでのエイズのまん延防止と感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、1988年にWHO(世界保健機構)が制定しました。レッドリボンはHIV・エイズに関する運動の世界的なシンボルです。

12月12日

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジデー

2017年の国連総会で採択されました。誰もが、どこでも、お金に困ることなく、自分の必要な質の良い保健・医療サービスを受けられる状態を実現するよう、世界に呼びかける日です。